第６学年３組　学級活動⑴指導案

日　時　令和８年１月 16 日(金)
５校時　13：40～14：25
対　象　第６学年　組　　名
学校名
指導者

１　議題　「クラスタイムカプセルを作ろう」
学級活動⑴　ア　学級や学校における生活上の諸問題の解決

２　育成を目指す資質・能力

- みんなで楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、他者と協働して取り組むことの意義や、合意形成の手順、深まりのある話合いの進め方を理解し、活動の方法を身に付けるようにする。
- 楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、問題を発見し、解決方法について多様な意見のよさを生かして合意形成を図り、信頼し支え合って実践することができるようにする。
- 楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己のよさを発揮し、役割や責任を果たして集団活動に取り組もうとする態度を養う。

３　評価規準

観点	ア　よりよい生活を築くための知識・技能	イ　集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	ウ　主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
評価規準	①　話合いの準備を進める方法について理解している。 ②　他者と協働して取り組む中で、深まりのある話合いの進め方やまとめ方について理解している。 ③　話合いで決定したことについてみんなで実践することの意義や、方法について理解している。	①　問題を発見し、自分事として捉え、議題や提案理由を意識して自分の考えをもち、話合いの活動計画について考え、準備している。 ②　提案理由を大切にしながら、複数の意見のよさを生かし合うとどのような案になるかを考えたり伝えたりしている。 ③　めあてを意識して身に付けたことを生かしながら、見通しをもって計画を立てる。 ④　自他の役割を考えて、活動の準備や活動に取り組んでいる。	①　よりよい学級生活づくりのためにすすんで計画委員会の活動や話合いの準備に取り組もうとしている。 ②　自己の考えを生かし、見通しをもったり振り返ったりしながら積極的に学級会に参加しようとしている。 ③　活動を振り返り、今後の集団活動に生かそうとしている。

４　指導観

⑴　議題観

本議題は、小学校学習指導要領（平成 29 年３月告示）第６章特別活動第２各活動・学校行事の目標及び内容を受けて設定した。

〔学級活動〕
２　内容
⑴　学級や学校における生活づくりへの参画
ア　学級や学校における生活上の諸問題の解決
学級や学校における生活をよりよくするための課題を見いだし、解決するために話し合い、合意形成を図り、実践すること。
３　内容の取扱い

⑴　指導に当たって〔第５学年及び６学年〕
　相手の思いを受け止めて聞いたり、相手の立場や考え方を理解したりして、多様な意見のよさを積極的に生かして合意形成を図り、実践すること。高い目標をもって粘り強く努力し、自他のよさを伸ばし合うようにすること。

決めたことの実践は、協力して取り組むとともに、実践後に一連の活動を振り返り、次の課題解決へとつなげていくことまで含む。

⑵　児童の実態

ア　児童の実態

学級編制替えをし、担任も変わった学級である。最高学年になり、児童会活動やクラブ活動などの学校全体での活動や、日々の学級での生活の様々な場面で、自分の役割や与えられた仕事を最後までやり遂げようとする姿が見られるようになってきている。その一方で、決められたことや与えられたこと以外は、自ら考えて行動することができない様子が見受けられる。そこで、具体的によい行動を認めたり、どうすればよかったのかを問い掛けながら助言したりすることで、自分たちで考えて行動することのよさに気付けるようになってきた。２学期に入り、様々な行事が続き、忙しさから、誰かがやってくれるからいいやという気持ちをもつ児童が増えた。そこで、見通しをもつことの大切さや、自分から積極的に行動するよさを伝えてきた。その結果、少しずつ改善が見られるようになってきている。

年度当初、６年生での活動に対する不安を児童に尋ねたところ、「前に出ることが苦手」、「みんなをまとめられるか不安」、「誰かが動けばついていけるが、自分からは動けない」といった声が多く挙がった。これらの発言から、前に出て話す経験の不足や、それに伴う自尊感情の低さがうかがえた。また、保護者からも、「自分に自信をもってほしい」、「自分のことをもっと好きになってほしい」といった意見が多く寄せられている。そこで、毎月友達やクラスのよさについての作文を書き、伝え合う活動に取り組むようにした。そこで、児童が自分のよさを知り、自尊感情が少しずつ高まってきている。その結果、児童の自己肯定感が少しずつ高まってきている。さらに、朝の会で発想力を培う活動「アイディアソウゾウタイム）を行い、定期的に全員が発表できる環境を整え、みんなの前で発表する経験を積んでいる。その結果、少しずつではあるが、自分から前に出て行動する児童が増えてきて、自己肯定感が少しずつ高まってきている。

「学級目標」
- **健康**で明るく、積極的に**行動**できる子
- みんなが仲良く**笑顔**にすごせる子
- 積極的な**声掛け**で、切り替えが早い子
- 楽しくみんなで**協力**して、授業ができる子

「学級の合言葉」
け・・・健康
一・・・笑顔
き・・・協力
こ・・・声掛け
こ・・・行動

イ　学級活動⑴

【司会グループと計画委員会】

司会グループ（司会２名、黒板記録２名、タブレット記録１名）は、年度当初に取った役割の希望をもとにグループ分けを行い、輪番制で行っている。

司会グループは計画委員会を開き、それぞれの仕事内容の確認や学級会シートの作成、黒板の使い方、当日の進め方について話し合っている。司会は、「司会シート」を活用し、計画委員会の内容や、学級会の話合いについてまとめながら、進行できるようにしている。学級会前日までには司会グループが声を掛け、前回の活動を振り返り、議題、提案理由、話合いのめあてに沿って、議題に対する意見を学習者用端末で学級会シートに入力している。全員が自分の考えや思いをしっかりともって学級会に臨むことができるように取り組んでいる。

学級会では、マグネットで理由をキーワード化して貼る工夫を行っている。また、今何を話し合っているか、短冊を活用して話合いの流れを視覚化する工夫にも取り組んでいる。

学級会後には、次の司会グループへの引き継ぎが行われ、よかった点や改善点を出し合い、次の学級会に生かすことができるように話し合っている。

【合意形成について】

合意形成については、学級会で決まったことは、必ず全員で協力して実践するということを確認している。話合いの振り返りを毎回行っていった結果、意見を合体するなどしてより多くの人の意見が生かされるようにしている。反対意見が出た場合、解決策をクラス全体で考えたり、条件付きの賛成をしたり、選ばれなかった意見については、ありがとうゾーンに掲示し、次回以降に生かしていくなど少数派の意見も大切にしている。

【振り返りについて】

学級会シートを活用し、学習者用端末に学級会や実践の振り返りを書けるようにすることで、次の学級会に生かせるようにしている。互いのよさを認め合えるように、友達のよかったところを書く項目を設けたり、友達のシートにコメントをしたりしている。さらに、互いの思いを共有できるよう、振り返りを発表する時間を設けている。

【終末の助言について】

終末の助言については、豊かな人間関係を育んだり話合いを通してよりよい学級生活を目指したりすることができるように、児童の振り返りを生かしながら具体的な事例と名前を挙げて言動のよさを認め、価値付けている。また課題については、課題そのものを指摘するのではなく、話合いの場面を振り返らせ、「○○の時どう思った？」、「どうしたらよかったかな？」のように児童に問い掛け、児童が自分なりの考えを見付け出すことができるように助言をしている。その結果、児童は新しい課題に出会った時にも、教師の答えを待つのではなく、自分なりに考えをもち、自ら課題解決に向かう姿勢が見られるようになってきている。

【これまでの学級会について】

回数	議題	話し合ったこと
第１回	１年間よろしくねの会をしよう	・みんなのことを知ったり仲よくなれたりする工夫
第２回	日光移動教室のバスレクをしよう	・仲を深めたり全員が楽しめたりする工夫
第３回	１学期ありがとう＆Ａさんを感動的に送り出そうの会をしよう	・仲を深めたり感動的に送り出したりできる工夫
第４回	子どもまつりをしよう	・みんなが笑顔になる劇の工夫
第５回	１年生ともっと仲よくなろう会をしよう	・盛り上がったりクラスの思いやりが深まったりする工夫 ・名札の工夫
第６回	かぼちゃ祭りをしよう	・思い出カルタのルール ・みんなのことを今以上に知れる工夫
第７回	ニコニコピカピカ冬祭りをしよう	・一人一人が目立ち、笑顔が増える工夫

⑶　本議題選定の理由

本学級では、２学期に学級集会を積み重ねてきたことや運動会・連合音楽会を通して、少しずつ児童同士がお互いのよさを認め合うことができるようになってきている。しかし児童から仲がよい人とはたくさんの思い出が出来てきたが、学級全体でみるとまだまだ足りない気がするという課題が出ている。

第８回学級会の議題選定にあたって、「節分パーティー」、「クラスタイムカプセルを作ろう」などの議題案が提出された。そこから提案者の「クラスの思い出を形にして、もっとみんなと仲を深められるようなタイムカプセルを作りたい。」というのが学級の課題解決に合っているという理由から「クラスタイムカプセルを作ろう」が計画委員会で選定された。その後、学級全員の承認を経て議題として決定された。

５　指導計画と評価計画

日時	児童の活動	◇指導上の留意点	□評価規準（評価方法）
1/8(木) 朝の会 中休み	・　計画委員会で議題を選定し、学級で議題を決定する。	◇　議題選定の視点を確認して決定する。 ◇　提案理由を深める。	ア―① 話合いの準備を進める方法について理解している。（発言・記述）

1/9(金) 朝の会	・　前回の司会グループとの引き継ぎ、また役割分担と仕事内容の確認をする。 ・　議題に対する意見を事前に考え、意見を書き、学習者用端末で共有する。 (計画委員会)	◇　司会グループの仕事内容と話合いの進め方、学級会シートの作成(提案理由の明確化、話合いのめあて・話し合うことの決定等)について確認する。 ◇　できるだけ多くの意見を書けるようにする。	イ―① 　議題や提案理由を意識して自分の考えをもち、話合いの活動計画について考え、準備している。 (発言・記述) ウ―① 　よりよい学級生活づくりのためにすすんで計画委員会の活動や話合いの準備に取り組もうとしている。 (発言・記述)
1/13(火) 朝の会 中休み	・　学級会シートの作成。 ・　司会グループが話合いの進め方について話し合う。司会ノートを書き始める。 (計画委員会)	◇　当日の話合いの進め方について、適切に助言し進行の見通しをもたせる。	
1/14(水) 朝の会	・　司会グループがクラス全体に提案理由、話合いのめあて、話し合うことの説明をし、全員で決定する。 ・　司会グループが話合いの進め方について、クラス全体で確認する。 ・　事前に出し合って掲示していた意見カードをもとに、前回の振り返りを踏まえ、一人一人が提案理由を意識して自分の考えを記入する。 (学級全員)	◇　提案理由や話合いのめあてに沿って、自分の意見を理由まで考え、記入することができるように助言をする。	
1/15(木) 朝の会 中休み	・　司会グループが一人一人の考えを短冊に書く。黒板の書き方の確認、司会ノートや学級会シートをもとに話合いの流れの予想、進め方の確認をする。 (計画委員会)	◇　見通しをもって話合いを進めることができるように助言をする。	
1/16(金) 本時	【第８回学級会】 「クラスタイムカプセルを作ろう」 ・　これまでの経験を生かし、提案理由を大切にして話し合う。	◇　児童の言動の中から具体的な事実を挙げて称賛する。 ◇　次回に向けた課題について助言を行う。	ア―② 　他者と協働して取り組む中で、効率的な話合いの進め方やまとめ方について理解している。 (発言・行動) イ―② 　互いのよさを認め合うためにどのような工夫がよいか考えたり発言したりして合意形成を図っている。 (発言・行動) ウ―②

			自己の考えを生かし、見通しをもったり振り返ったりしながら積極的に学級会に参加しようとしている。 （発言・行動・記述）
1/19(月)以降	・　役割分担を行い、決まったことを行う。 (学級全員)	◇　活動の様子を把握し、適切に価値付けたり、助言したりする。	ア―③ 話合いで決定したことについてみんなで実践することの意義や、方法について理解している。 （発言・記述） イ―③ めあてを意識して身に付けたことを生かしながら、見通しをもって計画を立てる。 （発言・行動） イ―④ 自他の役割を考えて、活動の準備や活動に取り組んでいる。 （発言・行動） ウ―③ 活動を振り返り、今後の集団活動に生かそうとしている。 （発言・行動）
	・　振り返り新聞を作成する。 (計画委員会)		
1/30(金)	「クラスタイムカプセルを作ろう」 (学級全員)		

６　指導に当たって

(1)　目指す児童像（班テーマとの関連）

班テーマを「自分事として捉え、よさを生かし合う学級活動」と設定した。「自分事として捉える」とは、児童一人一人が学級のルールや係活動、話合いの議題や学級の課題に対して、“自分には関係のないこと”ではなく“自分が関わるべきこと”として主体的に考え、責任をもって関わろうとすることとした。また、「よさを生かし合う」とは、自分・相手・学級・学年・学校様々な「よさ」を認め合ったり協働したりしながら、よりよい工夫や多様な意見を出すことで課題解決できることだと捉えた。

このような学級活動を展開していくためには、実態把握、適切な評価、教師の明確な指示・助言が必要であると考える。以上の事から目指す児童像を次のように設定した。

目指す児童像

○　学級生活づくりを自分事として捉え、他者と協働して取り組むことの大切さが分かる子
（知識・技能）

○　よりよい学級生活に向けて、多様な意見のよさを認め合い、合意形成を図り、実践する子
（思考・判断・表現）

○　互いのよさを生かし合いながら、自分の役割に責任をもち、集団活動に取り組もうとする子
（主体的に学びに向かう力・人間性等）

⑵　班テーマに迫るための手だて

手だて１　学級活動オリエンテーションの実施

ア　「学級活動オリエンテーション」を４月に行い、「学級活動⑴とは、みんなでやりたいことをみんなで話し合って、決まったことをみんなで行う時間である。」と説明をする。

イ　話合い活動の基本的なルール(発言の仕方・学級会の流れ・話合いの約束)について確認する。

ウ　オリエンテーションの内容は、１年を通して適宜確認している。そうすることで、学級会への期待感をもち、児童が見通しをもって話合いに臨めるようにしている。

手だて２　計画委員会の工夫

ア　学習者用端末上に計画委員会の記録を残し、クラス全体にも共有し、共通理解を図ることで話し合うことが焦点化されてよさを生かし合った話合いができるようにする。

イ　学習者用端末に記録を残すことで次回以降の計画委員会に生かすことができ、活動の積み重ねを意識できるようにする。

手だて３　学級会シートの活用

ア　学習者用端末で児童が共同編集できるようにすることで友達の意見をいつでも確認でき、互いのよさを認め合うことができるようにする。

イ　各学級会の　「自分の意見」、「自分のめあて」、「振り返り」を１枚のシートにまとめることで一連の活動を意識しやすくする。

手だて４　提案理由の工夫

ア　提案理由について学級で共通理解を図ることで焦点化されて学級の課題を自分事として捉え、よさを生かし合った話合いができるようにする。

イ　提案理由に入っている抽象的な言葉について、具体的にどんな状態かを学級で確認し、合意形成のよりどころにできるようにする。

ウ　提案理由について具体化したものをＩＣＴ機器に記録し、話合いだけでなく実践でも活用できるようにする。

手だて５　終末の助言の工夫

ア　話合いの記録をとり、終末の助言で活用することで、互いのよさを知ることができるようにする。

イ　成果と課題に分けて助言し、実践や次回の学級会に生かせるようにする。

ウ　児童に気付いてほしい点を問いかけることで、児童自身の言葉で振り返れるようにする。

エ　実践への意欲付けを行、学級の課題に対して、自分事として捉え、活動に取り組めるようにする。

手だて６　教室環境づくりの工夫

ア　教室に掲示し積み重ねることで自分たちのよさに気付き、高め合うことで話合いや実践の様子を振り返られるようにする。

イ　縦に見ると話合いから実践まで一連の活動がつながっていることが分かるようにする。

ウ　横に見ると前回を踏まえて活動することができ、成長を感じることができるようにする。

エ　今までの楽しかった経験を振り返り、次の活動の意欲が高まるようにする。

７　本時の展開

⑴　議題　「クラスタイムカプセルを作ろう」

⑵　本時のねらい

・　互いのよさを認め合うためにどのような工夫がよいか、多様な意見のよさを生かして話し合っている。

⑶　提案理由

・　学年で日光や運動会などで沢山の思い出を作ってきた。一体感がもてるクラスタイムカプセルを作り、６－３の思い出を残し、もっと仲を深めたいから。

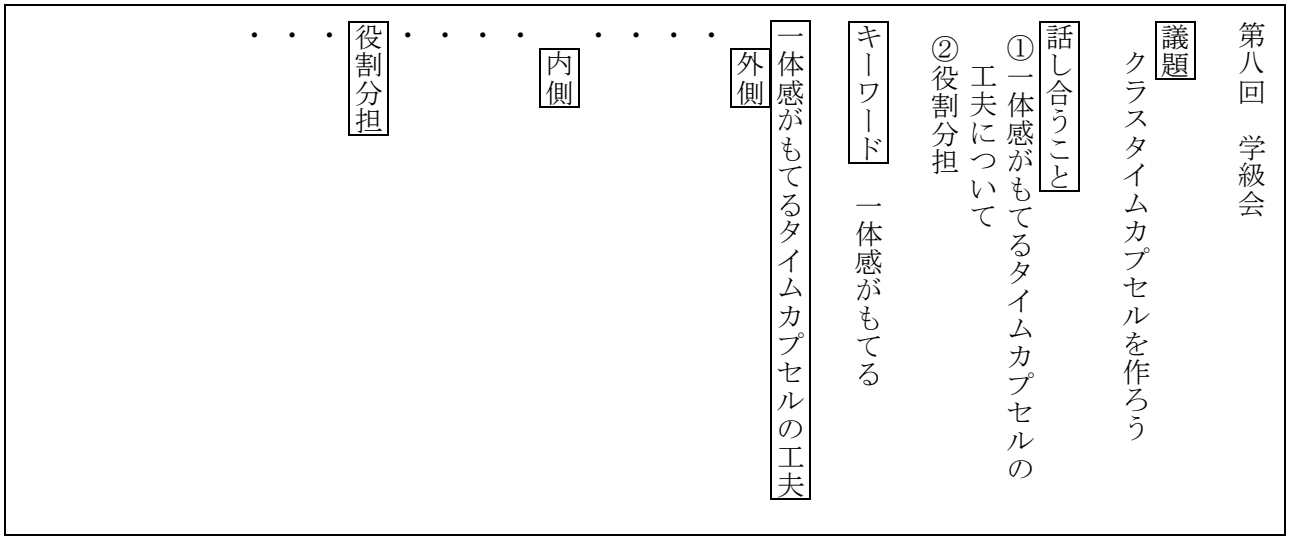
⑷　決まっていること

・ペットボトルで作る。・開ける日は、２０歳の時（それまで一人一人自宅保管）

⑸　教師の指導計画

話合いの順序	◇指導上の留意点　　□評価規準（評価方法）
1　はじめの言葉 2　司会グループの自己紹介 3　議題の確認 4　提案理由の確認 5　話合いのめあての確認 6　決まっていることの確認 7　意見の確認	
8　話合い 話し合うこと① 「一体感がもてるタイムカプセルの工夫について」	◇　自分たちの力で解決できるように見守る。 ◇　自治的な活動の範囲（個人情報やプライバシーの問題、相手を傷つけるような結果が予想される問題、校内のきまりや施設・設備の利用の変更などに関わる問題、教育課程の変更に関わる問題、健康・安全に関わる問題）を超え、自分たちでは気付かない場合は助言する。特に、人権的配慮が必要なときは指導する。
話し合うこと② 「役割分担」	◇　児童の活動の様子（発言、行動、つぶやき等）を記録する。終末の助言に取り上げたい内容についてはチェックしておく。 ※取り上げたい内容 ・司会グループの頑張り・成長が見られた言動 ・友達のことを考えた発言・次回への課題 ・実践への意欲付け
9　決まったことの発表 10　話合いの振り返り 11　先生の話 12　終わりの言葉	・　記録や児童の発言をもとに、よかったことや頑張ったことを称賛する。課題についても児童と一緒に振り返りをして、次回の学級活動への意欲を高める。 □　ア―② 他者と協働して取り組む中で、深まりのある話合いの進め方やまとめ方について理解している。 （発言・行動） □　イ―② 提案理由を大切にしながら、複数の意見のよさを生かし合うとどのような案になるかを考えたり伝えたりしている。 （発言・行動） □　ウ―② 自己の考えを生かし、見通しをもったり振り返ったりしながら積極的に学級会に参加しようとしている。 （発言・行動・記述）

⑹　板書計画



⑺　授業観察の視点

- 教師の助言は適切であったか。
- 目指す児童像に向けて手立ては有効であったか。

⑻　児童の活動計画

※配布資料参照